このスポット・おすすめ！

沖縄産の山葡萄ワインが味わえる地中海風レストラン

オーベルジュ・ボヌシェール・ラウー

地元食材と手作りにこだわったおいしい料理をコースメニューで

オーベルジュとは、自然豊かな郊外や地方にあり、その土地ならではの食材を生かした料理でもてなしてくれる「宿泊できるレストラン」のこと。今回ご紹介する「ラウー」があるのも、県道6号沿いから真栄田岬の海を望む風光明媚な場所。フレンチ出身のオーナーシェフ中田浩司さんが2000年に開業し、ランチ&ディナーは宿泊客以外にも開放して「地中海風レストラン」として営業しています。

「手作りにこだわり、旬と風土が感じられる料理を」と腕によりをかけたメニューは、昼夜ともにコースが中心。ランチはメインを3品、スープを5品からそれぞれ選べるほか、色とりどりの野菜料理約12品のビュッフェ付き。ディナーでは、メインを肉料理と魚料理から選べるハーフコースと、肉も魚も楽しめるフルコースを用意しています。

そして同店最大の特長といえるのが、沖縄原産の山葡萄リュウキュウガネブを使ったオリジナルワイン「涙(なだ)」が味わえること。中田さん自ら栽培も手がけ、研究機関などの協力を得て10年に完成。現在はワイン以外にも自家製パンの酵母やジャム作りに活用しています。

今まではブドウ畑の管理も料理もすべて中田さん一人でこなしていましたが、今春から腕利きのシェフを招へいしたことで、「ゲストの朝食とブドウ作りにようやく専念できるようになりました」。おいしい料理と沖縄産ワインで、夏の疲れを癒やしに行きたいですね♪

住所：恩納村真栄田61-1
電話：098-923-1234
営業：ランチ 11:30～15:30(L.O.14:30)
　　ディナー18:30～22:30(L.O.21:30)
休み：月曜日(祝日の場合は翌日休)
駐車：あり
http://www.raout.com/

〈おもなメニュー〉
●ランチコース……1,580円
野菜料理のオードブルバフェ、本日のスープ（5品から選択）、本日のメイン料理（肉料理、魚料理、パスタから選択）
●ディナーコース……3,850円
本日のオードブル盛り合わせ、スープor生パスタ、魚料理、肉料理、自家製パンの盛り合わせ、本日のデザート盛り合わせ、コーヒーor琉球紅茶

ワイワイ広場

なぞなぞに 読者 答えて ☺❖プレゼント❖☺

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『オーベルジュ・ボヌシェール・ラウー』で使える

3名様

Q なぞなぞ
真っ黒なのに、点々をつけると透明になるものは？

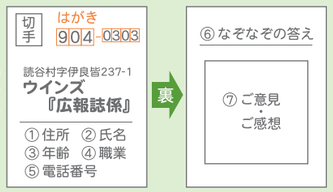
ヒント 真っ黒な鳥といえば？

8月号当選者　前号の答え〈サイコロ〉

おめでとうございます！
★知念喜美子さん(嘉手納町在住)
★アンドリューまみさん(読谷村在住)
★新垣沙矢香さん(豊見城市在住)

読者プレゼント応募方法

宛先



応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい！

締め切り

2018年9月20日消印有効

「当選者は次号(Vol.169)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。（ウインズ広報誌係）

お便り紹介♪

毎月、このスポット・おすすめ！"が楽しみで見させてもらってます。地元や沖縄のことがよりよく知ることができてうれしいです。今月のは特に私のお気に入りの自然いっぱいの特集だったのでうれしく読ませていただきました☺

Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に…。池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

60th Anniversary
Fresh Winds
2018年 9月号
Vol.168

TOKYO 2020

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00～18:00（年末年始を除く）

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい！

0120-229-512　ウインズ 池原建設　検索

今月の歳時記

9月1日(土)・2日(日)	**オリオンビアフェスト2018** 会場・開催地／沖縄市・コザ運動公園サブグラウンド
9月8日(土)・9日(日)	**第13回うるま市エイサーまつり** 会場・開催地／うるま市・与那城総合公園陸上競技場
9月22日(土)・23日(日)	**中秋の宴** 会場・開催地／那覇市・首里城公園 正殿前御庭
9月30日(日)	**第41回宜野湾はごろも祭り** 会場・開催地／宜野湾市・海浜公園 多目的広場

旧盆を過ぎ、夏の暑さも一段落。今後控えている秋のお祭りシーズンを前に、台風もそろそろ収束してほしいですね。9月は17日敬老の日と23日秋分の日を絡めた3連休が2回。今年のシルバーウィークはおじいちゃん、おばあちゃんを誘って、忍者ショー（中面を見てね！）なんていかがですか？

ストリートストーリー
Street Story!

「琉球忍者」見参！大迫力のステージを地元の若手俳優が熱演
目指すは世界が注目する本格エンターテインメント

■琉球忍者を演じるイケメン＆美女軍団。この中から将来のハリウッドスターが現れるかも!? 公演日は開演２時間前から準備を始め、その日の体調や演技のキレを見て、自主的に配役を決定。上演後は反省会を兼ねて夜遅くまで稽古に励んでいます

「琉球忍者」をご存じですか？平均年齢21歳と若さあふれる地元の俳優が、オリジナルの忍び装束に身を包み、スピード＆迫力みなぎるアクションショーを披露します。読谷村・残波岬のレキオスシアターで毎週金・土・日曜日の夜に定期公演を行うほか、県内外でのイベントにも多数出演。次代の忍者を養成（！）すべく「ちびっこ忍者体験道場」などの体験教室も開催しています。「アーティストやパフォーマーを志す地元の子どもたちが憧れる舞台に」することを一つの目標に掲げ、読谷発の世界的エンターテインメントを目指し、着実に活動の幅を広げています。

琉球忍者誕生秘話。海外の「ニンジャブーム」に着目

琉球忍者が時代の「表舞台」に本格的に登場したのは２０１６年。読谷村の残波岬いこいの広場に併設されている娯楽施設「レキオスシアター」の新装オープンに伴い、同年４月に定期公演がスタートしました。過去2年間の公演回数は４００回に及び、観客動員数は1万２０００人を突破（18年3月現在）。沖縄の新しいエンターテインメントとして着実に実績を伸ばしています。

■この日はショーの前に、観客の外国人の子どもが手裏剣にチャレンジ

■忍者が着用する衣装や小道具はすべて當山さん夫婦のお手製です

「ところで、なぜ沖縄で忍者なの？」。そんな素朴な疑問に答えるために、琉球忍者の生い立ちを振り返ってみましょう。事の発端は20年以上前までさかのぼります。忍びの仕掛け人「ａｓｈｉｂｉｅｎｔｅｒｐｒｉｓｅ（アシビエンタープライズ、読谷村伊良皆）」代表の當山浩さんは、当時アメリカ・ロサンゼルスで仕事をしながら、「ニンジャ」ビジネスの大きな可能性を感じていました。

「アクション俳優ショー・コスギの活躍によって、80年代から全米でニンジャブームが巻き起こり、テレビをつければアニメ『ミュータント・タートルズ』が大人気。帰国時に立ち寄った東京のニンジャレストランは外国人客で連日にぎわっており、“ニンジャは海外向けに極めて有望なコンテンツ”との認識を強く持っていました」。

外国人から見れば、沖縄は日本という国の一部だから、訪沖観光客のニンジャ需要も多いはず。そう考えた當山さんは、再び故郷の読谷村へ戻ると、忍者ショー構想の実現に着手。ドリフトや舞踊・振り付けの国内第一人者を招へいして助言・指導を受けるとともに、「沖縄発祥の空手の普及にも一役買いたい」との思いから、空手と古武道の要素も取り入れて、沖縄独自の忍者パフォーマンスを仕上げていきました。そして15年には、三重県伊賀市や滋賀県甲賀市など“本場”の忍者の里が参加する「日本忍者協議会」の正会員に認められ、万全の態勢で翌年の公演デビューを果たしました。

歴史の逸話をひもとき独自のストーリーを創作

琉球忍者はその圧巻のパフォーマンスに加えて、史実をベースに創作された巧妙なストーリー構成も大きな魅力の一つです。

「忍者とは、歴史の裏舞台で暗躍した諜報部隊のこと。かつて琉球の時代に、そのような集団は実在したのか？」を調査すべく、歴史家の亀島靖氏を訪ねたところ、「現在の那覇市首里寒川町付近に“ニンブチャー”と呼ばれる集団がいて、首里王府から給金を得て島々を巡り、情報収集をしていた」ことが分かりました。さらには第二尚氏王統に伝わる宝刀「治金丸」（那覇市歴史博物館所蔵）について、「空手の始祖といわれる京阿波根実基が国王の命を受け、京都の研師に治金丸の研磨を依頼したところ偽物とすり替えられ、再び取り戻すのに3年を要した」との逸話が歴史書『球陽』に書かれていたことにヒントを得て、物語を創作。「ニンブチャーに扮する護佐丸軍・阿麻和利軍の忍者たちと京阿波根が、治金丸を巡って三つ巴の戦いを繰り広げる」という「新・治金丸伝説」ができあがりました。

■演技とは思えないほどの、スピード＆迫力満点のアクションシーンが連続

上演時間は1時間。セリフの要らないノンバーバルのショーですから、観客が全員外国人でも大丈夫。當山さんは舞台の魅力をもうワンランク高めるために、「観客参加型・体験型のステージにしたい」との要望を演出家に伝え、忍者ショーが始まる前に、観客を舞台に上げて、手裏剣や吹き矢などを体験させるプログラムを盛り込みました。

結果は見事に大正解。初めて触れる忍びの小道具に、子どもも大人も大はしゃぎです。その日どんな忍術を試せるかは、会場に来てからのお楽しみ♪

全国に誇れる高度な演技力 若者が地元で活躍できる環境を

定期公演の出演キャストは5人。現在は10名のメンバーが毎回入れ替わりで、音響・照明も自分たちでこなしながら、それぞれの役を務めています。全員が地元の読谷村をはじめ沖縄県内出身で、平均年齢は21歳。年少の頃から演劇やダンス、伝統芸能などで数多くの舞台経験があり、現在は忍者ショーの他にもさまざまな分野で活躍する将来のスター候補です。

初演時からリーダー的存在として、他の忍者たちを引っ張っているのが、本誌14年6月号でもご紹介した渡久地雅斗さん（読谷村座喜味出身）。宮本亜門氏ら著名演出家からも高い評価を受ける実力派俳優で、琉球大学卒業後しばらくは東京と沖縄を行き来していましたが、今年に入って沖縄を活動拠点にすることを決意。「僕自身の夢をかなえる過程の中に琉球忍者があり、読谷発の世界的エンターテインメントとして、その地位を確立していきたい」と目を輝かせています。

そんな忍者たちの生みの親である當山さんは、「全員がとにかく努力家で、向上心が人一倍強い。これだけ高度なアクションシーンを演じられる集団は、全国を見渡してもそうそういないのではないか」と胸を張ります。例えば国内の著名なパフォーマンス団体と共演した際には、参加メンバーの負けん気にスイッチが入り、「公演後に会場から集めたアンケート結果を見ても、まったくひけを取りませんでした」とのこと。飽くなき向上心は演技だけにとどまらず、「定期公演でもイベントでも、ショーが始まるまでの“つなぎ”の時間は臨機応変に対応し、アドリブ力を鍛えています。また海外公演へ行く度に、観客とのコミュニケーションの必要性を痛感するのか、全員が語学の習得に熱心に取り組んでいるようです」。

一方で、これからの課題であり大きな目標であるのが、第二の渡久地さんを育てること。つまり「俳優志望の若い人たちが、東京や県外を目指すことなく、ここ読谷の地で活躍できる環境を整えること」。そのための布石として、新・治金丸伝説に続く新シナリオの公開や県内各地での定期イベントの実施など、琉球忍者のＰＲを図る企画が年内だけでもめじろ押しです。最後に當山さんは、ウインズの読者の皆さんに向けて、「ぜひレキオスシアターへ足を運んで、地元の若者たちが頑張っている姿をその目でご覧下さい。そして皆さんの力で、彼ら彼女らを世界に羽ばたかせて下さい」とメッセージを寄せられました。

■「ちびっこ忍者体験道場」の様子。将来の夢は忍びの道!

レキオスシアター
【営業時間】
毎週金・土・日　19:15 開演
【所在地】
読谷村字宇座1861番地